

柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会  
《第一中学校区》

日時：令和6（2024）年3月28日（木）午後6時30分～8時

会場：中央地区コミュニティセンター

**司会：**本日はお忙しい中ご参加いただきまして大変ありがとうございます。ただいまから、柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を始めさせていただきますと思います。本日の進行を務めさせていただきます防災・原子力課長の吉原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日の懇談会の終了時間は午後8時を予定しております。閉会の円滑な進行にご協力くださいますようお願いいたします。会議に先立ちまして皆様にお知らせとお願いがございます。会の途中スタッフが、写真撮影と録音をさせていただきます。写真は広報かしわざきや市のホームページに掲載するためでございます。録音は議事録を作成するために使用させていただきます。この点どうぞ、ご了解いただければと思います。また報道機関による写真撮影等もあるかと思しますので、併せてご了解願いたいと思います。それでは最初に市長の桜井雅浩よりご挨拶を申し上げます。

**市長：**皆さんこんばんは。今日は原子力発電所の再稼働を巡る地域懇談会ということでこの中央地区、いわゆる柏小一中校区の皆さんを中心に大変お忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。しばらく少し立ってご挨拶させていただき後に座ってまた映像などもご覧いただきながらご説明をさせていただきたいと思っております。

この地域懇談会、昨日から始めさせていただきました。昨日は、会場は松波コミュニティセンターにおいて松波町、それから荒浜町内会、それから高浜地区のいわゆる具体的に申し上げますと、大湊、宮川、椎谷という形で要は原子力発電所の、まさにお膝元の地区を対象とした、地域懇談会、原子力発電所の再稼働を巡る地域懇談会でございます。参加者松波町は、ご承知のように、市内で300余りある町内会の中で一番大きな町内会でございます。人口は一つの町内会で約3000人を持つ町内会でございます。荒浜、また、高浜地区大湊、宮川、椎谷は小さな町内会であります。そういったところで昨日は44名の方がお集まりいただいたというふうに理解しております。

この一中校区、中央地区は約人口が1万人を欠けますけれども9000人余りの地区でございます。今日、私もここに住まわせていただいているわけでございますけれども、先般、つまり1月1日の地震、能登半島における地震のご心配も含めて、2月、3月と、町内会長さん、またコミュニティの会長さんたちを始めとして、津波のときにどうしたらいいんだろうかというふうなご心配に関して説明会もさせていただいたところでありますし、また、全校区の皆さんには市民の皆様には、津波における避難行動みたいなものに関してのプリントも全戸に配布をさせていただいたところでございます。

そういった中で能登半島の画像が出て参りますテレビにもいろいろ出てまいりますけれども、原子力発電所が、北陸電力の志賀原子力発電所がございます。そして柏崎には東京電力の柏崎刈羽原子力発電所がございます。能登半島地震のテレビ画像等を見ると、一般住宅がかなり崩壊してしまっている中で避難できるんだろうかというようなご心配が、多くの方々からお寄せいただいているところでございます。今日はそういったことも含めて、そういった中であっても、原子力発電所の再稼働はこうあるべきだという、私自身の考え方を含めてお話をさせていただきたいというふうに思っております。

ご承知のように、私は今、柏崎市長職を2期目8年目でございます。中央地区の方々のご承知だろうと思っておりますけれども、私は過去4回市長選挙に臨んでいるところでございます。2回

は残念ながら落選をしている。その後、東日本大震災が起こり、私は政治の道から退き、後援会政治団体を解散し、そして8年前に原子力発電所の再稼働には意義がある。しかし、いつまでも原子力発電所だけに頼るべきではないと。再生可能エネルギーも柏崎の産業にするべきだというふうに申し上げて、8年前、そして4年前も御当選をさせていただいたところでございます。特に4年前の前の市長選挙に関しましては、もう明らかに、私と一緒に出られた方は、原子力発電所の存在、もしくは原子力発電所の再稼働は反対であるということをお話されて、立候補されているわけでありまして。私自身も、原子力発電所の再稼働には意義があるというふうなことを申し上げて、そして、先ほども繰り返して申し上げるように、再生可能エネルギーも柏崎の大事な産業にしていくべきであると、環境産業、エネルギー産業にしていくべきだというふうに申し上げて、明確な対立軸があり、後、前回市長選挙において展開され、私自身は当選をさせていただいたというところでございます。

そしてご承知のように、昨年12月27日に東京電力柏崎刈羽原子力発電所7号機6号機に関する国の追加検査が終わり、そして許可が国の許可が出たというふうになっております。そして、法律の上では地元の合意といったものは必要ないことになっています。法律の上では地元の合意というのは必要ありません。しかし、今までの慣例で、柏崎刈羽のみならず、全国の原子力発電所の大問題に関しては、動かすときに地元の了解を得ることが慣例となっているという形の中で、今実際に今日、ニュース報道が出て、出されたと思いますけれども、原子力発電所の7号機の燃料を装荷すると、いう具体的に申し上げると、来月4月15日に7号機の燃料を装荷するという段階になってまいりました。なんだ燃料を装荷すれば、もう再稼働じゃないのかと思われる方がほとんどだろうと思いますけれども、燃料を装荷するというのは再稼働ではありません。燃料を装荷して、しっかりと燃料が入って出るかどうかということの検査があります。その検査を行うために燃料を装荷するという段階です。では再稼働は何をもって再稼働ということを行うのかといえば、燃料の中にある制御棒というものがあります。制御棒を引き抜くと、いわゆる原子力発電所が動き出すと、発電が始まるということになります。その制御棒を抜くということに関しては、まだ時期が決まっていないと、その制御棒を抜く段階で、いわゆる地元合意、柏崎市、刈羽村、そして新潟県の許可を求めるということが慣例になっているというところでございます。

そして私自身は、先般、3月21日に、今日議員さんたちもおられますけれども、3月21日に柏崎商工会議所を始めとする、各種団体から出されていた原子力発電所の早期再稼働を求める趣旨の請願が議会において採択をされました。議会は市民の皆様の代表であります。それも、賛成反対拮抗した票数ではなくて、16対5という、大きな差を持って再稼働に関する請願が採択されたということでもあります。では、私自身ももう再稼働をOKと言えいいじゃないかというところでございますけれども、私自身は、再稼働に関しては、前から国に対しても、東京電力に対しても条件、もしくは要件といったものを前提要件といったものを申し上げているところでございます。

まず、国に対しては、再稼働までには、5つ、道路整備を含めて、いざというときの避難の経路をしっかりと確保する、その計画実践を行いたいと行ってもらいたいとさらに具体的に申し上げるならば、国道8号線のバイパス工事を、その進捗を早めてもらいたいということが一つ。もう一つは、米山インターチェンジがこちらから行きますと、米山大橋の西側の方にあります。ところが米山大橋は風でよく止まる。もしくは、強風で止まる可能性があると言われるところでございます。いざというときに米山大橋を渡らなければ、米山インターチェンジに乗ることができない。柏崎市民の皆さんこの中央地区もそうですけれども、75%、8万人の人口の中の75%が、上越市、糸魚川市、そして妙高市の方に避難することになります。つまり8号線を使っていくか、北陸自動車道で行くかしか、上越、妙高、糸魚川の方には避難できないという形になります。そういったことで、8号線の米山大橋を渡らなければ、イ

インターに行けないということであっては困るということで、米山インターチェンジを米山大橋の手前の方に移してくるか、もしくはその手前にあるサービスエリアから緊急に高速道路に入っていくような経路を作ってもらいたいといったものが2つ目の要件。3つ目は、国道353、つまり鶴川の方に向かっていく上方地内にスマートインターチェンジを作ってもらいたいというのが3つ目。そしてもう一つは、刈羽村の方々を含めて8号線と、曾地にスマートインターを作ってもらいたいといったものを含めて、新潟県知事と刈羽村の村長と私とで、国に対して要望をさせていただきました。5つ目は小村峠のトンネル化です。この要望の答えが、そう遅くないときに出てくる、返事がくるだろうと思います。その返事を得て、最終的に考えています。そのことは国にも東京電力にも伝えていきます。

それから、東京電力には、いくつか要件を出しましたが、一番大きなところは、実は柏崎刈羽原子力発電所の中に、使用済みの核燃料がプール水の中に保管されています。七つ原子力発電所がありますけれども、柏崎刈羽にありますけれども、全体の中で使用済み核燃料を保管している容量は、全体の今、81%が埋まっています。そして今回、再稼働を求められている7号機に関しては、7号機のプール、使用済核燃料のプールの中には、管理要領のもう97%が埋まっています。6号機には92%が埋まっています。これは再稼働したとしても、すぐに97%、92%埋まってるわけですから、すぐに止めなきゃいけないじゃないかということで、私は東京電力に再稼働までにはおおむね80%以下にてもらいたいということを東京電力にも要望をしているところでございます。

今ほど申しあげましたように、議会の請願の可決、そして、今ほど申しあげた国に対しての出している避難経路等の要望を出した答え、そして東京電力からの答え、実践といったものを見ながら、最終的に地元としてこの再稼働を了解すると意義があるということは、私はずっと申しあげて、一貫して変わっていないところでございますけれども、では、その再稼働を実際に認めるかどうかということに関して、最終的に皆様方のいろいろなご意見もお伺いしながらジャッジをするところでございます。

以下座らせていただきます。今日は1時間半の中で、もう大体10分ほどお話させていただいたわけですが、あと10分、15分ほどお話をさせていただいて、あとは皆さん、残り1時間は皆様方からいろいろなご質問、ご質問やご意見をお聞かせいただきたいと思います。今日はプリント2枚お渡ししました。一つは原子力発電所に関わる事実関係○・×・△という書いてある黄色いアンダーラインが書かれているところ。もう一つは、カラー刷りでGXに関するコメントというところでございます。基本的にはまず○・×・△の方をご覧ください。

私自身の原子力発電所、再生可能エネルギーに対する考え方は別紙、別紙というのが今のカラー刷りの方で、青い柏崎市2022年8月24日と書いてある方ですけれども、基本的に今ほど申しあげましたように、原子力発電所は、私は現時点では重要であると。これは柏崎にとっても新潟県にとっても、そして日本にとっても世界にとっても意義があるという、重要であるというふうに申し上げています。

しかし、先ほどから申し上げていますように、徐々に確実に減らす。実は七つ、原子力発電所が集中立地しているのは世界に、ここだけあります。そういった意味で集中リスクを軽減する、そしてCN電力というのはカーボンニュートラル電力のことでございます。CO2の削減といった意味でカーボンニュートラルの電力、原子力発電所もその一つであります。再生可能エネルギーの原子力発電所の夜電力、CN電力の供給の拠点化にしたいというのが私の考え方でございます。

さて、別紙の方も一度GX実行会議で示された私の原子力発電所の方針などに対するコメ

ントというのをご覧ください。これは、これが私の考え方、ほぼ全てでございますので、恐縮でございますけれども、朗読をさせていただきますので、お聞き取りください。この1年半前です。2022年ですから2年前というんでしょうか。1年半前に出された国の方針、政府のGXグリーントランスフォーメーションの実行会議に関する考え方に関して私がコメントしたものでございます。

- ① 再稼働の方針に、改めて柏崎刈羽7、6号機の名前が含まれるとするならば必然。
- ② 国の方向性、「安全性の確保を大前提とした上での原子力の最大限活用」が示された以上、新潟県におかれましては、「3つの検証」について、行政手続法の観点からも、明確な結論を早期に出し、原発、再稼働問題の議論を始めて頂きたい。
- ③ 稼働標準期間を40年から60年に延長する方向性、検討も、日本のエネルギーセキュリティ、また、気候変動、地球温暖化を防ぐという原発の環境性能を考えても、海外の事例を勘案しても妥当
- ④ 原子力規制委員会による安全審査などに長期間を有している現状を鑑みると、40年の期間から、審査期間、柏崎刈羽のように中越沖地震などで止めざるを得なかった期間、つまり原子炉稼働により放射化されなかった期間を減ずるのが合理的ではないかと思うが、この点にもしっかりとした基準が求められる。
- ⑤ 私自身は1~7号機全ての再稼働は経済的にも、安全面からも合理的ではないと考える立場なので、従来申し上げているように東京電力には1号機~5号機の廃炉計画を出してもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5つ全てを廃炉してもらいたいということではない。
- ⑥ アメリカ合衆国においても、1立地点で3、4の原子炉を有しているのが最高であり、福島事故を経験し、かつアメリカ、ヨーロッパ、中国などと比べても大規模地震が起きる確率がけた違いに大きい日本においてはエネルギーセキュリティ、環境性能を考えてもなお、原発は制約的であるべき、というのが私の考えである。
- ⑦ リプレイス、新增設の議論が出てくることは、ウクライナ情勢、エネルギー価格の高騰、経済、国民生活への影響を考えると、一般論として考えれば、これも自然な流れであると考え。
- ⑧ 柏崎刈羽原子力発電所の1立地点、柏崎市の市長として、この53年間原発賛成、反対と議論し続けてきた歴史に鑑みると、今、この時点でリプレイスだとか新增設などということは言える段階ではないと考える。  
例えば、50年間言われ続けてきた「トイレ無きマンション論争」核燃料サイクルに明確な方向性、光が見えない。六ヶ所村の使用済み核燃料再処理施設は26回目の竣工延期である。日本が未だ先進国だとするならばあり得ない事態である。むつ市、青森県の苦悩を見る時、原発立地点として、さあ、原発、どんどん行こう、等とは到底言えない。  
柏崎刈羽の使用済み燃料プールは全体で約81%が埋まっている。再稼働を目指している7号機のもは約97%、6号機のもは約92%埋まっている。
- ⑨ バックエンド問題も、敢えて言うが、寿都町、神恵内村の「男気」に頼るようでは国のエネルギー政策とは言えない。
- ⑩ 本当に腰の据えた国民的議論を、早期に、そしてしっかりとしていただきたい。国の存亡をも占うエネルギー政策を「これを機会に」「やっつけ仕事」ではいけない。  
納得がいく議論がなされ、結果が出されたとするならば、国がこれまで以上に、原発の科学的、合理的安全の確保を行い、住民が安心、かつ豊かな生活を享受できるような施策展開、原発の集中リスクの軽減、洋上風力発電の海底直流送電など再生可能エネルギー供給計画への柏崎市の参画等を担保していただければ、柏崎市はこれまで以上に国のGX、エネルギー政策の一端を担う覚悟はある。  
ということ、一昨年8月24日に出させていただいたところでございます。

1 枚目の○・×・△のポイントにお戻りください。なぜ私がこのように、原子力発電所の再稼働に意義があるのかということ考えたとき、具体的な理由を申し上げます。事実関係というところです。

まず福島事故における補償配慮復興に関する費用は、以前までは 2 年ほど前までは 21 兆 5000 億と言われていたのですが、1.9 兆上がりまして、23 兆 4000 億円かかる。そしてこれを賄うためには、今東京電力が支払わなければいけないのは 17 兆円オーバーだと言われています。残りは国民の負担です。つまり、17 兆から 18 兆と言われるお金を東京電力が自分たちで賄わなければいけない。相矛盾していますけれども、原子力発電所の事故を起こした東京電力が補償の費用廃炉の費用、復興の費用等を賄うためには、その原子力発電所を再稼働しないと、東京電力が儲からない、廃炉の費用を出せない。復興の費用を出せないという、非常に相矛盾したところであります。しかし、それがなければ原子力発電所一つが 1 年間動くと、約 1100 億円が利益として上がると言われています。そういったことで、福島事故における補償配慮復興費用を賄ってもらうという意味があります。

それから、日本世界の下、電源構成をちょっと裏の方をご覧ください。裏の方はカラーで円グラフがまずございます。円グラフは、日本が今どうやって電気を作っているかという実態でございます。今ここで使っている電気は東北電力の電気を供給されています。

東北電力を含めて、石炭火力、LNG つまり、天然ガス、それから石油、その他の火力、つまり日本は今、電気を 7 割以上、火力発電で、化石燃料を燃やして CO2 を出し続けて、今、電気を作って私達はその電気を享受しています。

世界ではどうかと申しますとその下の帯グラフを見てください。中国アメリカ、インドロシア日本と書いてあります。帯グラフは左の方から日本 31.0、これは石炭です。それから石油天然ガスと続きます。そうしますと足し算をしますと、上の円グラフとちょっと数字が違うんですけども、おおむね 7 割になります。

これ年度が違うからこういうふうになってるんですけども、つまりその 34.6、天然ガスまでが左 31.3、3.7、34.6 までが化石燃料です。つまり、見ていただきたいのは、一番上、中国、中国は石炭で 63.3、そして 3.1 の天然ガス、石油 0.1 ということになってはいますが、つまり日本は今、日本は中国よりも CO2 による火力発電の割合が多いということです。

アメリカよりも、インドよりも、ロシアよりも中国よりも多い。それが今の日本の電源構成の実態でございます。そういったことから、やはり発電時に CO2 を出さない原子力発電所は、今の段階では日本にとっても必要であるというのが私の考えであります。

表に戻ってください。とはいえ、福島の事故で多くの方が被ばくしたんじゃないかと。赤ちゃんや、影響が出てるんじゃないかということに関しましては、国連の科学委員会が、ご覧いただいていますように、2020 年 2021 年度版の報告書で、毎年出てるんですけども、毎年のように出てるんですけども、黄色い線、福島県民の健康被害で事故による放射線被曝に直接起因するものと思われるものは記録されていない。赤ちゃんのこと、胎児のことも下に書いてございます。こういったように、国連を信じないということであればまた別ですけども、少なくとも、世界各国が加入している国連の科学委員会の報告書の中に、福島県民の健康被害で事故による放射線被曝に直接起因するものと思われるのは記録されていないというものが書かれているというところがございます。

そして、下の方に行って、原子力発電所が再稼働がなされたときに、関西電力、九州電力など安い電気料金があるということがございます。もう 1 回裏をご覧ください。下の方に日本地図があります。関西の割安さが際立つ、これは家庭用の電気料金の違いです。柏崎は当然、東北電力の管内に入っているわけでございます。そして右側の囲みの記事は、産業用の電気料金でございます。東北電力、東京電力、関西電力と比較した場合に、関西電力が一番安い東北電力が一番高くなっております。

なぜか。関西電力や、ここに書いてありませんけども九州電力は原子力発電所を再稼働しているからです。原子力発電所を再稼働させている電力会社は電気料金が安くなっています。いうことをもってしても、私はやはり日本は、物を輸入して、資源を輸入してそれを加工して、そして輸出して儲かっているという産業構造である限り、電気料金は安くなければいけないと、日本の産業構造が崩れてしまうというふうに考えることから、やはり再稼働は必要だと考えています。

とはいえ、冒頭申し上げたように、能登半島の地震であれだけ皆さん、家屋が倒れて避難できないじゃないかというようなご心配があったらと思います。今もあろうかと思えます。固有名詞はあげません、さすがに。自治体の名前は上げませんが、石川県における住宅の耐震化率は 46%から 64%でございます。それに比して、柏崎市は 89%でございます。また、お隣の長岡市も 90%でございます。上越市は 87%でございます。つまり、石川県の一般住宅の耐震化率と柏崎を含めて、新潟県の耐震化率のポイントは 30 ポイントから 40 ポイント柏崎を含めた新潟県の方が高いと、耐震化が進んでいるということでもあります。道路も状況は同じであります。

それから、津波に関しまして心配をされた方も多いただろうと思います。はい。今、これは皆さんのご自宅にあるこの防災ガイドブックの中央地区の部分のページです。津波が来るじゃないかということで皆さんご心配いただいたわけですが、今回の能登半島地震における割れ残り断層といったものの心配が、テレビ等でも報道されています。

割れ残り断層による津波は 3m だと言われていました。今回能登半島の地震における割れ残ったところによる地震がまた起こったときに、新潟県を含めて、津波の高さは 3m だと予想されており、しかしこの今、中央地区、西の方の中央地区の方に関しましては、これは新潟県が行ったシミュレーションでございますけれども、3m ではなくて 4.9m を予想しております。4.9m の予想をしても、このピンク色というか肌色というところが、今これ港町海浜公園のこの辺ですけども、この辺でとどまるということです。色のついていないところは、私ども、この中央コミセンも含めて、津波は 4.9m の津波が来たとしても、ここには来ないということでもあります。いうことを含めて、今、またあの西本町ばっかだと言われると困るので、東の方も用意してあるんですけども。

同じように、こちらの方も含めて、はい、ここにあるのは鯖石川でございます。そして、このあたりが、いわゆる安政町であったり、北園町であったり、桜木町であったりするところに陸上競技場ここにあります。ここも 4.9m の津波が来たとしても、ここでもとどまると、いうのがシミュレーションでございます新潟県が行ったシミュレーションでございます。

繰り返しになりますけども今回の能登半島における地震で割れ残り断層による地震が起こった場合に起こる津波の予想水位は 3m であります。しかし、新潟県の方私どもの方のシミュレーションをした部分は、それをさらに上回る 4.9m のシミュレーションをしたとしても、ここにとどまる。つまり、白いところは津波は到達しないというシミュレーションでございます。

それから、もうそろそろで終わりにしますが、最後に東北電力、今私たちが使っている電気は東北電力から来てます。東北電力の女川原子力発電所、宮城県の東日本大震災で、町ごと根こそぎ残念ながら大きな被害が出た自治体です。この女川町に、東北電力の翁長は原子力発電所があります。この女川の原子力発電所は、この 9 月に動きます。再稼働します。既に宮城県の知事、女川の町長、石巻市長は、地元の詳細を行いました。結果的に 9 月以降、女川の原子力発電所の電力は、柏崎にも、流れてきます。

一方、私ども柏崎刈羽原子力発電所は東京電力の電力です。柏崎には直接は来ていません。しかし、9 月以降は女川の原子力発電所の電力が、地元了解をしていただいた電力が来ると

いうことであります。

そして最後に、東京電力は今回というか、麻布、福島事故を経て、柏崎刈羽にかける覚悟といったものを、東京電力の原子力本部を300人規模で柏崎に移します。エネルギーホールに新しいビルを建て、そこに200人を常駐させます。100人はサイト内に入れます。と聞いています。この300人が柏崎で生活をします。社員寮も新しく作るというふうに聞いております。そういったことを含めて、下にある〇×表は、今、5000人から6000人の方々が働いていらっしゃる、そのうち54%は柏崎市民です。ご家族を含めると、1万の単位になるでしょう。もちろん財政的なメリットもあります。×の方を見てください。福島事故、今申し上げた、それから広島長崎の原子爆弾のイメージも強いものがあります。先ほど私も申し上げた、使用済み核燃料の最終処分もまだ決まっていないという部分もあります。地震大国であります。新潟地震、中越地震、中越沖地震能登半島地震の影響を受けております。テロの標的となりうるところもあるかもしれません。ということも、〇×も私が考えるところで書きました。これは私が自分で考えて、こう書いておきます。

そういったことを含めても、私は今ほど申し上げたように、柏崎にとっても日本にとっても、もちろん新潟県にとっても世界にとってもこの地球温暖化気候変動がある中で、今7割の電力が火力発電によるという、これは不名誉な「化石国」と言われている日本の実態は変えなければいけない。そういった観点も含めて、私は原子力発電所の再稼働の価値がある意義があるというふうに考えるところでございます。以上でございます。あとは、皆様方からご質問なりご意見を賜りたいというふうに考えております。それではここからは参加者の皆様の方からご質問ご意見の方をお受けしたいというふうに思っております。

**司会：**1問ごとに市長の方がお答えをさせていただきます。ご発言していただく際には挙手をいただきましてスタッフがマイクをお持ちしますので、恐縮でございますが町名とお名前をおっしゃってからお話をさせていただきますようよろしくお願いいたします。それでは、いかがでございましょうか。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉と申します。他の会場でもちよくちよくあって申し訳ありませんが、今市長さんも、絶対に津波は来ないんだと。それで先日も防災部長さんそこおられますけれども、絶対に行きませんと、鵜川から津波は絶対行きませんとか、鯖石川も来ませんと。絶対ってことはありますでしょうか。

**市長：**はい。まず私は今日絶対ということは申し上げていません

**質問者：**そうですか。あり得るということですね。

**市長：**想定、もちろん私はいつもこの津波だけではなくて、いつも申し上げていることですが、100%はありえないというふうに申し上げてます。

**質問者：**先回お話ししたときには津波は、なんていうんですか、駅前だとかその辺は来ないという話だったもんですから。

**市長：**来ないと。シミュレーションの中では来ないということでございます。あくまでも、これはもう絶対ということは何事に関してもありえないと思っております。

**質問者：**私はほら、聞いたときは絶対っていう感じで聞きましたんで、人間絶対災害は絶対来ないとか、そういうことはまずないんですね、必ず想定しないことが起きるんです。その

ときに大体皆さんの説明は想定外でしたとか、言い訳ですけどもそうなりますね。それともう一つ質問なんですが、原子力災害だとかそういうのが起きたときに総括防災責任者っていうのは、櫻井市長ですか。

**市長：**ちょっと〈質問者〉さんのお話ばかり伺うわけにいかないんでこの辺で少し止めていただきたいと思いますけども、当然のことながら、行政における最高責任者は私でございます。

**質問者：**はい、わかりました。はい、あんまり長く私ばかり言うのはあれです代わります。

**司会：**はい、ありがとうございます。お時間ございましたらよろしくお願ひいたします。他の方おられましたらお願ひいたしますいかがでしょうか。はい。今、マイクの方をお持ちしますのでお待ちください。

**質問者：**〈町名〉〈名前〉です。私は原子力発電にはそもそも反対です。柏崎に原子力発電所を作るときに、国や東電は、柏崎のこの地は安全な場所だって言ってたんじゃないでしょうか。でも、中越沖地震が起きました。このとき、原発を誘致した方も話が違う、再稼働はしない、廃炉にしてくれと言えたはずです。原子力発電所は安全と事故など起きないそう言って作ったはずですから。福島で事故は起きました。このときこそ話が違う再稼働はしない廃炉にしてくれと言えたはずです。事故は起きないはずだから避難計画はなかった。でも事故が起きたから、避難計画を作りましょうで作った。そしたら1月1日の地震で避難などできないことが明らかになった。道路は寸断されるし家屋は倒壊するし津波も来る、自衛隊は来ない、避難などできないことが明らかになった。避難計画など実現不可能だってことが明らかになった。そしたら今度は避難しなくていいって言い出した。被ばくは怖くないって言い出した。本当にもういい加減にしてくれと思います。どれだけ馬鹿にされればいいんですか。

今まで避難計画を策定してた市役所の職員の方も、どんな気持ちなんだろうと思います。なんでここで再稼働の請願なのか採択なのか、私にはわかりません。中越沖地震でボロボロで、杭が折れていたことが今になってわかる程度の点検しかしてなくて、ならば更なる見落としはあるでしょう。

地盤は安定していないこと地震が起こることもわかってて、東京電力の核を扱う適格性には大いに疑義がある。地震も想定内、事故も想定内です。今、原発を再稼働させたら事故は起きると私は思ってます。起きないと思えることが理解できません。

そして事故が起きて避難しなくていい、放射能は怖くないということは全く理解できません。避難しなくていいというのなら作るのは道路じゃないと思います。道路が使い物にならないことは1月1日に既に証明されてるじゃないですか。がけ崩れは起きる、市内でも道路の損傷による通行止めが起り、渋滞がありました。お願いですから、全市民が避難できる地震でも壊れない核防護施設の建設、市民全員分のヨウ素剤、タイベックスーツとマスクの準備と配布、これを行ってください。道路よりもこちらの方が優先だと思います。避難しなくていいというのならなおさらです。幼児、子供、妊婦が被ばくしないように守ってください。国策だからといって子供たちの命と健康を奪わないでください。再稼働はしないでください。

福島原発事故によって生活していた土地から避難しなくてはならなかった人、今も帰れない人、避難先で苦しんでる人、命と健康におびえながら暮らしている人、3.11 子供甲状腺がん裁判で闘っている子供たち、チェルノブイリで暮らしていた人、第5福竜丸の人、原発労働者の方々、外部被ばく内部被ばくで健康を蝕まれた多くの人たちを愚弄するような放射線を浴びても大丈夫だという田中俊一の講演を柏崎市のホームページから削除していただきたい。

使用済燃料放射性廃棄物核のゴミについて、この資料のように考えているのなら、再稼働はできない。これ以上核のゴミは増やさないと結論になぜならないのか、私には理解できません。

**市長：**ご質問というよりもご意見だというふうに承りました。ご意見としても、私は少なくとも、田中俊一先生を呼び捨てするようなことは、いかにどのようなお考えであっても、私は、それは、田中先生に対しても失礼だろうというふうに思っております。人としての常識だろうというふうに思っております。いずれにせよ、考え方に違いがあるわけでございますけれども、私どもの方としては、道路が寸断されて、そして家屋が先ほど冒頭申し上げたように、能登半島においては、かなりの割合で倒れ、そしてそこで圧死という形で、亡くなられた方が多かったのは事実であります。

しかし先ほど申し上げましたように、石川県における耐震化率と新潟県柏崎市における耐震化率は明らかな違いがあります。道路も明らかな違いがあります。それから今ほど〈質問者〉さんがお話されたように、原子力発電所福島事故における冒頭申し上げましたように、国連科学委員会の中で、被ばくによる被害はないと。その後の影響もないということが、言われているわけでありまして。私は申し上げているわけではなくて、国連の科学委員会で言われているわけでございますので、あとはそれを信じるか信じないかの問題だろうというふうに考えております。

道路を作るんじゃなくて避難施設を作ったり、またタイベックを供与したりした方がいいんじゃないかということは、やはりお考えの一つとして、私どもも耳を傾けなければいけない部分があるかと思っております。例えば東京電力が先ほど申し上げたような駅前のエネルギーホールに原子力本部を作ると、ビルを造るというふうな話をしておりますので、そういったところにも、いわゆる退避施設を作っていただけるような要望はしているところでありますし、東京電力もそれは考えているというふうに返事をいただいているところでございます。

また、私自身は原子力発電所に先ほど申し上げましたように、プラス面ばかりがあるとは申し上げておりません。バツの部分も、正直に書かせていただきました。今ほど御指摘をいただいた、使用済み核燃料の最終処分の部分も確かになかなか進んでいません。これはマイナス、×の部分です。しかし、先ほど申し上げたように、100%は何事もないわけです。原子力発電所を動かさないで、今のこの電気は化石燃料によって作られているという現状をどうするのだろうか、再生可能エネルギーで頑張ればいいんじゃないかと言われるかもしれませんが再生可能エネルギーは今そんな力はないんです。残念ながら、今現状では。となれば、やはり私は安全を確保しながら、もちろん 100%ではないわけですが、原子力発電所の再稼働を認めながら、カーボンニュートラル時代に資する発電方法を選択していかざるを得ないだろうというのが私の考え方でございます。

**司会：**はい、〈質問者〉様ご意見ありがとうございました。それでは次の方、いかがでしょうか。はい、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉といいます。立場意見とかいろんな人たちが二分されるような、そういう話の中で、こうして市長が冷静に現実的な立場で政策を進めてくださっていることは本当にありがとうございます。1点手続き的なところを質問させてください。宮城県で地元了解済みというお話があったんですけども、この地元の了解っていうのは具体的にどういうものを持って了解って言うんでしょうか、市民による住民投票なのか、それとも議会なのか、それとも櫻井市長が、政治責任のもとに判断するものなのか、そこら辺をよろしくお願いします。

**市長：**はい、ありがとうございます。先ほど申し上げたように東北電力の女川原子力発電所の地元了解ということでございますけれども、これは議会の判断を経て、町長、そして市長、

そして知事が地元了解とするというふうになったというふう承知をしております。女川の町長さんとは、私も懇意にさせていただいて、あらゆるタイミングで意見交換をさせていただいておりますけれども、女川の町長さんは、少なくとも議会の判断をベースに、地元了解をさせていただいたというふうにお話されております。以上でございます。

**司会：**〈質問者〉様ご質問ありがとうございました。他の方がございましょうか。はい。今マイクをお持ちしますのでお待ちください。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉と申します。4月1日の剣野コミセンで予定している懇談会の方はちょっと用事があって参加をできないので、こちらの方に参加させていただきました。よろしくお願いします。ちょっと体調が悪いので、座ってさせていただきたいと思います。再稼働に反対する立場で、意見を述べさせていただきたいと思うんですけれども、福島第1原発事故がどのような事故だったのかということ、もう1回しっかり我々は思い返すべきだと思います。3.11の原発事故では、地震や津波の被害で救援を求めている人々を、緊急避難指示で助けることができずに死亡させたという痛恨の出来事がありました。地震と津波は巨大な自然災害ですけれども、原発事故は明確な人災です。多くの家族が引き裂かれ、家も農地も仕事場も、地域社会も壊され、13年経つ今も、十分な除染もされずに、帰還もできず、亡くなっていく人々がいることを、胸に刻まなければいけないと思っています。世界最大の3基のメルトダウンの事故処理は、技術者の中でも100兆円以上、100年はかかるだろうという声が出ています。未だに880tの燃料デブリ、取り出しの方法も、目途も全く先が見えません。しかし実は、もっと重大な被害をほとんどの専門家が予想していました。4号機の最上階の使用済み核燃料のプールの空焚きで強い放射能が周辺に飛散し、半径250キロ圏内5000万人が避難し、暮らせなくなる。東日本壊滅のシナリオがありました。これに対して、上空から光っています、水がありますとの実況中継で関係者が喚起して、そういうことが起こりました。燃料プールの隣にある区画から、壊れるはずのない境目が壊れてしまって水が流れ込んで、空焚きにならなかった。全くの想定外の事故とも言われることで救われた。そしてもう一つは、2号機の格納容器の圧力が、非常に高くなって、何をしても下げることができなくなった。爆発の危険が迫りました。吉田所長は、最小限の人を残して避難を呼びかけて、自分は床に座り、日蓮宗のお経を唱えておりました。これもまた、半径250キロ圏内柏崎刈羽も含めて、5000万人が避難をして、暮らすことができなくなる最悪の事態が予想されました。ところが、どこからか設計されていない漏れが起きてしまって、爆発を免れたのです。

この二つのことは、設計通りであれば、4号機の燃料プールには水は流れ込みません。2号機は爆発をしておりました。多くの方が命の危険を冒して必死の努力をして、事故の被害を最小限にするために努力しましたが、4号機と2号機の事態が、このようになったのは、想定外のことだったのです。津波の危険の指摘を無視して、最悪の人災を起こし、事故を起こしても責任を認めない東電が、柏崎刈羽の原発の再稼働運転をしようなどという、世界中が呆れてしまう。最悪の冗談だろうと私は思っています。その後の国会の事故調は、東電、電事連、政府、学者が原子力村となり、強烈にそれに対して非難をしました。

最後に、2011年に桜井市長が、反省の弁を述べた短く、ごくごく一部だけ読み上げて終わります。

わかっていた。薄々気づいていたけれども、言い出せなかった。こんな事態を私達は反省しなければならないと思う。反省の度合いはそれぞれ異なるであろうが、反省をしなければならないと思う。原発の推進、容認の立場で進んできた私達は、技術を過信し、安全安心というものを、結果としてないがしろにしてきた結果として、と述べておられました。以上です。

**市長：**はい。〈名前〉さんからもご意見として承りましたけども最後の部分は、もちろん私書いたもので、本人ですね、覚えております。しかし、同時に、その文章を、皆さんに全戸

配布を、新聞折り込みをさせていただいたときに、明確にこのような事態にあっても、原子力発電所の再稼働は必要であると書いてあったはずであります。一部だけ切り取って、そういうふうにご紹介されるのは、私としても不本意であります。もちろん反省もありますし、ですから私は先ほど申し上げたように、福島の事故の後、2回の市長選挙に負けた後、福島の事故が起こったわけでありましてけれども、私は政治団体を解散して、自らの責任を取ったという形でご理解をいただけるかどうかわかりませんが、それから福島事故のことに対するご見解や、正しいところもあろうかと思えますしまた見解が違ふところもあろうかと思えます。

それから、何と申し上げますように、福島事故というか、東日本大震災において死者が出ましたけれども、たくさんの死者が出ましたけれども、その92%から93%は津波による溺死であります。溺死であります。先ほど申し上げたように、放射線被ばくによる死者ではありません。その後の影響も先ほど申し上げたように、国連科学委員会の中ではないというふうに報告が出てきているところは、事実として申し上げておきます。

それから、中で働いていらっしゃる方々はどうだったのかということでございますけれども、今、柏崎刈羽の原子力発電所の所長、稲垣所長、皆さんご承知の通り、この2011年の福島の事故のときにサイト内にいらっしゃったわけです。昨日私所長にお電話をして、確認をしました。結果的に事故後、福島の事故のサイト内どれくらいおられたんですかと、後始末も含めて、事故後、1年と3ヶ月でしたでしょうか、つまり15ヶ月ほどいた。しかしご承知のように、今稲垣所長は柏崎刈羽原子力発電所の所長として陣頭指揮をとって、健康な姿で頑張らっしゃいます。同じように、柏崎刈羽原子力発電所のサイトに今働いていらっしゃる方々の中に、福島事故において、同じように、一般の方よりも多い被ばくをしながら、しかし今は柏崎刈羽で健康な体で働いていらっしゃる方もたくさんおられるというふうに、昨日も伺ったところでございます。もちろんご心配される方も多いだろうと思えますけれども、事実として、そういった事実があるということはご承知おきいただきたいというふうに考えております。

**司会：**〈質問者〉様ご意見の方ありがとうございました。ご質問、ご意見される際は極力まとめていただいてご発言いただけると幸いです。ご協力の方よろしく願います。他の方いかがでございますでしょうか。はい。今、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉と申します。地域コミュニティの会長もやっています。私は地震に伴う津波についてですね、前々からお話をしている点についてお聞きしたいと思っております。元旦の日ありました津波であります、上越地方ですと確か1メートル20という津波の高さの方がされていたと思いますが、技科大の先生とかによると後付けですが、波がですねどこまで来たかという、5メートルとかあるいは6メートルまでさかのぼったんじゃないかということをおっしゃっていました。それから柏崎市から今出てる海岸ではですね、防潮堤が、コンクリートの防潮堤が5メートルの約5メートル沈下してますから多分4.8ぐらい下がってるかも知れませんが、5メートルの防潮堤があります。ところどころが、こちら側に約10メートルの盛り土があるわけです。ですから、例えば5メートル越えてきても安全だろうと思われているかもしれませんが、防潮堤をのことを聞きますと、引き波でほとんど壊れるということとか、10mの盛り土も沈下をするというふうに聞いてますし、鯖石川はちょうどいい図が出ていますが、4メートル80とか4メートル90の波が来ると、ぶつかったところが5メートル30までせり上がるというふうに聞いています、その肌色のところを見ますとですね、ほとんど徐々に開口部である鯖石川の河口部にですね、他から寄ってくる波があるんじゃないかなというふうに私は考えてます。5メートルある防潮堤は、あの一般的になくなるぐらいの波がですね、何もない鯖石川の河口部に寄ってきたときに、今のあの範囲で本当に収まるだろうかということ疑問に思ってます、今日ここで後結論出なけ

れば、そのシミュレーションしたデータを事務局の方とお話をさせていただきたいと思いますが、ちょっと疑問に残っているところです。

**市長**：はい、ありがとうございます。まず、今ほどお話しいただいた〈質問者〉さんからのいわゆるせり上がりと言われる部分ですけども、例えばこれ、これ、スクリーンが堤防だったとすると、こっちの方から皆さんの方からこういうふうに津波が来ます。ちょっとここに壁があるわけですからせり上がるわけです。せり上がって越えてしまうんじゃないかというようなご指摘、ご心配なんだろうと思うんですけども、実はこの、この中央地区の方つまり東側の方に関しては4.9というのは、この基準水位というのは、そのせり上がりも含めて、想定しているところでございます。

それからもう一点、これも前から〈質問者〉さんからも御指摘をいただいているところですけども、鯖石川の河口付近の西部分、この部分、この部分は黄色っぽくなっているここを津波が来るんじゃないかという部分で、ここは何でこうなっているかというとは実はこの部分だけ、この防潮堤とかその堤防がないんです、ここが。ないので、〈質問者〉さんからは、ここにも作れというふうな御指摘をいただいて、県とも協議を始めているところでございます。

そういった形で、繰り返しになりますけれどもこの4.9mの基準水位というものは、津波の基準水位というものは、せり上がりを含めた数字だということで、ご理解賜りたいと思っております。

**質問者**：鯖石川の河口部はせり上がりが5.3、多分なっていると思います。鯖石川の左岸側の防潮堤が5メートルになってない分は、せめて同じだけの5メートル作ってほしいという要望は上げているところであります。私が言いたいのは、開口部があると、つまりあの鯖石川がその門が、無防備になっていますから、開口部があると、上図のようにせり上がりが出てくるんじゃないのと、今のあの絵だと、単純にポンと上がってですね、エネルギーを持った波が寄せるんじゃないかと、自然と湖が上がるみたいな感じで塗ってあるのがおかしいと私は言っているんです。つまり松波側の河口部が5.3になってですね。だから5.3以下の部分が上がるという表示されてるのは当然ですが、もっと鯖石川がですね、もっと、開放になっていますから、寄せ波が来るんじゃないですかということを言っているんです。

**市長**：それも私も専門家じゃないんで何とも申し上げられませんが、実は5.1となっておりますけどこちらにも確かに開口部がありますので、実際に1月1日の元日の大地震のときには、ここから河口部分から、この安政橋付近まで、20センチぐらいの水位の上昇が見られたというふうなことは、上がってまいす。その動画も私も見せてもらいましたので、今ご心配の、つまり白色側の方の日、西側の方の開口部、それから松波町側の方の東側の方の開口部に関してはまた県とも話をさせていただきながら、その後不安を解消するためにはどうしたらいいのか、もしかしたらこのままでいいのかということも含めてもう少し話を詰めてまいりたいというふうに考えております。

**司会**：はい。〈質問者〉様ありがとうございます。補足させていただくと、前からお話しただいておましてデータの提供、それから説明につきましては新潟県の方に今お話をさせていただいて調整していることということでご理解をいただければというふうに思っております。それでは、他の方、今マイクを持ちますんでお待ちください。

**質問者**：はい、ありがとうございます。〈町名〉の〈名前〉です。よろしくお願ひします。いつも柏崎市のこと一生懸命やっただきまして本当にありがとうございます。あえて櫻井さんと呼ばせていただきますが、柏崎の海川山を愛してらっしゃると思っておりますし、これだけ今ご説明いただいたことを、頭の中に入れるには相当資料を読み込んだり勉強されないとわからないことなので、本当に本気になって取り組んでいらっしゃるというふうには私は

理解しております。その上でだからこそ本音でお話をさせていただきたいんですが、私は再稼働はして欲しくないなという気持ちではありますけども、ちょっとそれは置いて、櫻井さんが市長選挙のことをお話されたりとか、請願、経済界の方から請願があってそれが議会で通ったというお話されたんですけども、それで市民の代表によってそういうふうに決まったというふうにおっしゃるんですが、今、選挙というのは、あの半分の人が選挙に行かないような時代になってしまっています。確かに、選挙に行かないということは無関心であるから、行った人たちだけで決めればいいよねというのわかるんですが、ただ、このままじゃどうなのだろうかとというのがずっと自分の中にある引っかかっている部分です。

それで、政治側からもっとやはり市民の方に寄っていてももらいたい、寄っていく工夫が必要なんじゃないかと思います。私は今子育て世代ですけども、まずこの時間にこういう会が開かれても、子育て中のお母さんたちは来られません。来られない方が多い。今日も来る予定だったお母さんが、子供が熱を出した、残念だけど行けないと言われて話聞いてきてねって言われてきました。ので、多分この会自体があることを知らない人もいるんですが、でも僕たちの周りにはすごく関心を持っている人たちがいます。すごく関心がないかもしれないけれども、今日のような、すごくわかりやすいです。説明聞かせていただくとそうなんだって初めてわかる人もいると思うのもっとですね。子育て世代のお母さんたちとか、若い世代の人たちが参加しやすいような雰囲気を作れないだろうかと思っています。

例えばチェルノブイリの事故の後に、事故で出た水を川に流すってなったときに、それ住民から反対があってそれがストップになったそのときに、何か話し合いの場を持ったっていうんですね。何年もかけて話をしていって、最終的に賛成はできないんだけど、大気に逃がすっていうところで落ち着いたっていうような話を聞きました。

あの櫻井さんがこの裏面、コメントの裏面の最後に書かれている、本当に腰のすえた国民的議論を早期にというところが、賛同します。もう国民もそうですし、柏崎で何とかいろんな立場の人、若い世代、議員さんだったり、うちの立場の方もそして電力会社の方も、もちろん市長にも言っていて、何て言うんすかね、反対賛成だけじゃない議論をしていきたい、いけたらいいなというふうに思います。そういう場をぜひ作っていただけると、なんていうんですかね、建設的という言葉も嫌なんですけど、多分誰も全員が納得するなんてありえないと思うんですが、それでもしょうがないよねって、あなたはそこまで考えていてくれているんだよねって、思いやりあえる社会、世界にしていきたいなっていうふうに思います。

この話は、あの核のゴミと言われる問題もありますし、僕らだけの世代じゃなくて僕たちの子供、孫、もっと先まで続くことだと思っていますので、その辺十分櫻井さんならご理解されているんだと思いますが、そういう場を作るのであれば協力しますので、ぜひご検討いただき進めていただけたらありがたいと思っています。以上です。ありがとうございます。

**市長：**はい、ありがとうございました。〈質問者〉さんは私よりずっと若いわけですけども、正直私も来月になるともう62になるわけです。それに28のときに戻ってきて、市会議員にならせていただいて、原子力発電所に対する考え方は全く変わってないんですけども、福島事故の後、若干の考え方に対する反省ということも含めて、またさらに環境問題、の観点からという形で原子力発電所の意義ということを訴えたという部分がありますけれども、その私が28であった。つまり、34年前から、確かに若い世代の方々が、柏崎の問題であり、日本全体の問題でもあるような原色発電所の問題、もしくはエネルギーの問題といった問題にどうやって関心を持っていただくかというのは、私も28年、非常に悩みました。

これもご承知だろうと私と同世代の方々以上の方がご承知だろうと思いますけど、私は最初の市議会議員の選挙に、環境問題を訴えて空き缶を集めながら、選挙運動をしました。自転車に乗って、アルミ缶とスチール缶と分けながら、牛乳パックを集めながら、私の選挙事務所、後援会事務所には空き缶が山になっていました。分別回収を訴えて、最初の一般質問ではその分別回収をするべきだと。その当時は燃やさないゴミということじゃなくて危険物と

という言葉で燃やさないゴミを処理していました。そうではなくて、資源リサイクルという観点から分別回収を進めるべきだということで環境問題を訴えて、最初の市会議員の選挙を戦ったということも含めて、若い世代の方々がどうしたら関心を持っていただけるのか、どういう場を持つべきなのかということも含めて、今ほどのご提案というのは、やはり今後生かしていかなければいけないだろうと思います。

それからただ、もう一つご理解いただきたいのは、この再稼働の問題はもうはっきり申し上げて、もう私、もう8年前からやっているわけです。8年前から、もう十分に私としては、はっきり言って、何で8年たっても進まないんだということになれば、一つは東京電力が自ら犯したボーンヘッドがあるから、IDカードの不正使用だとか、核物質防護事案とか出したもんだから、東京電力自らが起こしたからここまで延びてしまった。

もう一つは、新潟県が三つの検証を行って、5年間もやって、その結果、申し訳ないですけどよくわからない結果が出て、それを待っていると、そこまで議論をしないというのが、知事のお考えだったわけですから、私から見れば、もう8年もこの再稼働の問題といった問題は、この柏崎刈羽に、また新潟県に投げかけられている問題であるわけですので、これからさらにまた時間をかけて、若い世代の方々を含めて話し合いの場っていうのはなかなか難しいのかなと思っています。

ただ、今、本当に〈質問者〉さんがお話しいただいたように、これがいいかな、これは実は、2年前4年前に行うちょっとちっちゃくて申し訳ないですけども、市民の皆さんにアトランダムに、柏崎市が行った市民の意識調査です。

柏崎刈羽原子力発電所1号機から7号機までは今後どうあるべきだとあなたは思いますかといったウクライナ情勢の前です。2022年2月ですから、選択肢1、7つ全部、全号機の再稼働が必要だと考えている人は全体の6.1%です。6%しかいらっしゃいませんでした。選択肢にできる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要というのは29.2%であります。徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にするは39.4%であります。そして直ちに七つ廃炉すべきだというのが19.2%であります。

この後、ご承知のように、2年前、つまり2022年にウクライナ情勢がありました。ウクライナ情勢があってエネルギー価格が上がったときに、柏崎市の市民の意識調査はしていませんけども、全国の各新聞が、各新聞が、原子力発電所の問題について世論調査をしたときに、やはり日本全体の世論としては過半数が原子力発電所は必要だということが、全国の各新聞の世論調査で出ています。

しかし、この前の能登半島の地震の後に、その数値は落ちました。過半数が原子力発電所が必要だったというところもあれば、過半数を割った世論調査もあります。しかし、市民の皆様が柏崎市におけるこの市民意識調査といった問題は、おおむね全国の世論調査の数字とほぼ合致しています。

この数字、特に3番に関して徐々に減らしていき将来は全て廃炉にするという39.4%は曖昧じゃないかと。徐々に減らす的というのは、動かさないまま減らすべき将来は全部廃炉にするんじゃないのというふうなことを言われたものですから、そういう意味じゃないんですよということで、別の機会に問い方を変え、問いかけをさせていただきました。

地域エネルギービジョンを策定するときに、こういう問いかけをしました。柏崎市では地域エネルギービジョンを策定し、限定的な基数、期間の原子力発電所の利活用と、風力太陽光蓄電池水素など再生可能エネルギーの産業化によるカーボンフリーのまちづくりを進めています。このことについてあなたはどうお考えですか。つまり限定的ですが、原子力発電所を利活用しますよ。そして、風力、太陽光蓄電池水素も、産業化していきますよと。これについてどう思いますかというアンケートをしました。

そうしましたらば、大いに賛成27.6、おおむね賛成43.9、つまり足し算をしますと71.5%の方々が、原子力発電所の限定的な利活用と再生可能エネルギーの産業化に71.5%の方々が賛

成しているという結論が出ております。もちろんこのアンケートの中には若い方々もお年を召した方もいらっしゃいます。子育て世代の方々もいらっしゃいます。客観的な統計学に基づくアンケート調査でございます。そういったことを含めて、私としても今は市長という立場でございますけれども、やはり決断をするときに、今日の会もそうです、議会の議決だけでよかったじゃないかという方もいらっしゃいます。しかし、先ほど厳しいご指摘をいただいた女性もいらっしゃいますけれども、ことも含めて、私としては、最後の決断をする前に、いろんな方々のお話をお伺いしてから、決断をさせていただきたいというふうな思いで、こういった会をさせていただきました。いずれにせよ、またいろんな機会があろうかと思っておりますけれども、皆さんの方もご意見をお寄せいただきたいというふうに思っております。

**司会：**はい、〈質問者〉様ご意見ありがとうございました。はい。他の方、一番前の方お願いします。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉といいます。質問というより、私自身、原子力は埼玉大学で理科教育学をやっております、そういう原子力とかいうのをエネルギーと考えさせればいいのか、子供たちにそういう絡みもあって、私自身はどういう意見を持つのかということで、私は原子力発電反対という人は、火力発電だけでやって、この地球温暖化はどうするのかってね、それをあわせて考えている人ってあんまりいないんですよ。反対だ。だから、それぞれ良さがあるってね、私自身は、結論から言いますと、原子力発電もやらなきゃいけない。要するにウランも、化石燃料も有限の資源なんですよ。将来の人にね、石油とウランとどっちを残してあげたらいいか、石油の方はね、多目的に利用できるか、それを残してあげましょう。ウランなんかエネルギーにしか使えないんだから、有効に使ってエネルギーはウランで、もう使っちゃうってね、500年先かもしれないけど、その人には多目的にできる石油を初めての化石燃料の方からよく残した方がいいんじゃないかって、そういうのが私の意見です。だから、若干サポートする形になるかどうかは知らないんですけども。だから、例えば飛行機だって寝落ちるんですね。車だって事故起こすしね、だから、絶対安全なものなんかないんだけど、だから不安全でいいっていうことを言っているんじゃないんだけど、あの、総合的に考えてどうやっているのかっていう意見をやっぱり各自が持つべきじゃないかと、これは意見です。特に質問ということではないんですけど、ここに今参加していたんで一言は言った方がいいと思ひまして、以上です。

**市長：**はい、ありがとうございました。ご専門の観点から、学究を求められた経歴も含めてご発言をいただきました。確かにウランの使い道としては燃料しかないのか、私はちょっと詳しくはわかりませんが、確かに石油は燃料とする以外にも石油を加工して、プラスチックになったりと、いろいろ使い道があるわけでございますので、ご見識勉強させていただきました。ただいずれにせよ、先ほど今お話がありましたように私自身も100%いいものっていうのはないわけであって、表があれば裏があって、いいところもあれば悪いところもあるという部分は何事にもみんなあるんだろうと思います。それをどういうところで折り合いをつけるのかというところを判断せざるを得ないところだろうというふうに考えるところでございます。貴重なご見識をお聞かせいただきましてありがとうございました。

**司会：**〈名前〉様大変ありがとうございました終了時間がちょっと近づいておりますので、これで最後の方にさせていただきたいと思ひます。先ほどから手を挙げられている方、よろしくお願ひいたします。

**質問者：**はい、〈町名〉の〈名前〉と申します。昨日松波町の会場では、私の勤務をしてい

る社会福祉施設の施設長という立場でもって、質問させていただきましたが今日は〈町名〉の1住民として質問をさせていただきます。

能登半島の地震の後にですね、規制委員長の山中さんがですね、失礼しました原子力対策指針の見直しをしなければならない。いうふうなことをおっしゃってですね、その後、前言をひるがえしてする必要はないと、国会でもそういうふうにこのまま答弁をされているのを聞きました。

しかるにその実はですね、その中で、部分的ではありますが一応、柏崎でも一番話題になっております屋内退避についてですね、規制委員会の中では、今の中では非常に曖昧である。3点ぐらい問題があるというふうなことでですね、一つはですね、その開始時期、屋内退避の開始時期や対象の範囲のあり方、一つはですね、その退避を解除するという。もう一つは、解除するんじゃないくて、線量が上がってきたから逃げなきゃならんと、要するに避難の何ですかね、タイミング、そこらのことを今の中では非常に不明確である。誰が責任を持ってやるかというふうなことも、明記されていないということで、この点については検討チームを作って、議論しようという、委員会の中での方向が決まって、昨日ですかね、今日ですかね、マスコミにはもう具体的に挙がっていますけれども、検討チームが編成をされて、これから検討していくということだそうです。

私実は地域の会の委員も1月からやらせてもらっておりましてこの点は実は、このマスコミに載る前からですね、地域の会の中で、こちらの規制事務所ですか、所長がですね、この点にも触れて説明をされていました。私の方から、その検討チーム、どれぐらいタイムスケジュールで検討されるんですかって質問しましたら、まだ時間が来てないときでしたので、今年度中、つまり3月末ぐらいまでにチーム編成をしたいとそれから1年間、おおむね1年間をかけて検討する、6年度末にはですね、結論を出したい。という話をされましたそれをもって、ここに危機管理監の方もいらっしゃるんですけど、それをもって各市町村は、そこから出た結論に従って、避難計画についてもまた検討されていくということになると思うということまではっきりとおっしゃいましたので、1年かかるんですねと、こういう話です。

それで、何が問題かといいますと、委員長はですね、指針は見直さないとはいったけど、指針の見直しに実は部分的であるけれども踏み込んでいるわけですね。そのことに、もう1年、時間を要すると。だからどういう結論が出るかわかりませんが、今柏崎が市民に提示している避難計画はですね、見直しをされる部分が出てくるということです。少なくとも、今のままではないと思います。そしたら、今再稼働云々ではなくて、その見直しに従って、新たなね、それを取り入れた避難計画をですね、策定し直して、それを示してやっぱり市民の理解を得る必要があると私は思います。

ですから、今、本当に闇雲にですねここへ来てほんの1ヶ月ぐらいのうちにどんどんどんどん再稼働を再稼働とおっしゃってますけれども、少なくとも、櫻井市長が、規制委員会がちゃんとやってるんだからってずっとおっしゃってますから、ずっとおっしゃってるその規制委員会がまさに今着手をしてるんですから、その結論を待っていただければならないなと私は思っております。そこだけ、それは後でいいんだよってそういう話で私はないと思うんですね。避難計画の根幹に関わる問題だと私は思ってます。

私の意見といいますか、とにかくじっくりと時間をかけてこの規制委員会の検討チームの結論を待っていただきたい。それに従って、柏崎の避難計画の策定のし直しをしていただきたいということです。以上です。

**市長：**はい。昨日に続いてありがとうございます。昨日いただいた宿題も実は今日また、〈質問者〉さんお越しいただくとは思ってなかったんで用意してあるんですけども、それはちょっと時間もありませんので、今規制委員会の指針の見直しですけども、ちょっと見解が違ふと思います。最初から山中委員長は、ここに記事はありますけれども、東京新聞の記事であります。が、山中委員長は1月31日の会見で、原子力災害対策指針そのものを見直さないといけないとは思っていない。明確におっしゃっています。ので、あくまでも記事の見

出しも、微修正止まりという、指針そのものの話ではないという見出しがついています。そして、論点整理として今お話があったように、屋内退避の、例えばいつから屋内退避をするのか、いつ解除するのかといったことに関しての、部分的な論点整理が行われそのことに関しての議論が約1年間ぐらいかかるんじゃないかと言われていたところでもあります。私ども避難計画云々に影響するのは避難指針の修正があったとするならば、私達の避難計画にも関係するところがございますけれども、少なくとも、規制委員会の山中委員長は繰り返しになりますが、原子力災害対策指針そのものを見直さないといけないとは考えていないというふうに明確におっしゃってますし、その後の国会等でもそのようにお話されていますのでご理解を賜りかどうかわかりませんが、私どもの方としては、避難指針の見直しが必要であるということであるならば避難計画も当然それに基づいて考え直さなきゃいけないわけがございますけれども、今の段階で避難指針が見直されるということではないというふうに私ども理解しておるところでございます。

**司会：**はい、1分程度でよろしく願いいたします。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉と申します。私は再稼働に反対する立場ではございません。でも避難に関してですね、何点かお話ししたいかと思えます。冒頭市長の方が説明がありましたですね、国に要望している避難という事案がありましたよね。実現したいなという話があったんですけども、その実現は稼働の容認に直接繋がるのか繋がらないのかっていうのがまず一つと、あと先ほどの説明の中でですね、高速道路を中心に避難を考えているようなところがあるんですけども、地震の避難、津波の避難ではないんですよ。原子力の避難ですよ。原子力というのは四方八方なんですよ。方向は関係ないですよ。そうするとね、避難経路っていうのは、放射線状に伸ばしてそれを細分化して、それを環状線で繋げる、こういう避難が必要になってくると私は思ってます。この辺の意見に関してのご意見をお願いします。以上です。

**市長：**はい。最初の5つの知事とともに出して知事とともに出した要望に関しましては、もちろんこれがすぐに実現するとは考えておりません。しかし、こういったものはしっかりとやるんだという方向性を申し訳ないですけど、2番目のご質問の答えにもなるわけですけども、一番大きな国に対しての課題としては、野田の交差点があります、353の。あの信号から、西の方に向かうと、小村峠があります。そこに小村峠は今期間閉鎖です。そこにトンネルを作ってもらいたいという要望を出しています。トンネルを作るのは1年や2年ではできません。しかし、将来的に柏崎刈羽にもし何かがあったときに、そこにトンネルがあるとないとでは大きな違いだということで、必ずこのトンネルを作ってもらいたいというふうに要望を出しています。5つの要望のうちの一つです。そういったことを含めて、すぐにできること、すぐにできないことたくさんありますけれども、しかしその方向性をまずしっかりと出してくれることを国として応えてもらうことを期待してしますし、概ね期待に立てていただけだろうというふうに確信を持っております。

2点目の放射線状にという部分は、これはおっしゃる通りです。例えば、この先ほど申し上げたようにこの中央地区は、糸魚川、妙高上越の方に避難しますが、例えば西山の方の方々は村上の方に避難します。曾地の方の方々は、湯沢の方に避難します。つまり、北に避難する方は南に避難する方、東に砂避難する方、そこには当然のことながら、116もあれば、8号線もあれば、高速道路もあれば、そして8号もあれば、いう形に基本的に放射線状に避難するというところに、地域ごとに避難先も含めて決まっています。

**質問者：**その避難は原子力じゃないですよ。要はね、どっちに風が流れるかで避難場所は変わるんですよ。

市長：いやけれども、いずれにせよ柏崎は海があるので、海方向には行けませんけども。

質問者：放射能の流れる方にみんなで避難しようという人はいません。場所の限定はできませんという話です。

市長：いや、けれども、申し訳ないですけども、皆さんが同じ方向に避難していったらば、それこそ避難に時間がかかるし、避難先の方も受け入れはできないわけです。できないわけです。

質問者：避難できないじゃないか。

市長：いやいや、しかし、すぐに避難をしなくても良い形になってるわけです。

質問者：確かに原発はすぐに避難はいけませんよ。

市長：ですので、そういった意味で屋内退避の問題が出てくるわけです。ですので、基本的には柏崎は西の方に海があるので海の方に避難はできませんけれども、北の方に上がる 116、それから 8 号も含めて、そして 352 も含めて、海沿いでいく 352 も含めて、そして 353 を含めて。

質問者：本当に何考えてるか全然通じないんですよ。原子力の避難は四方八方に逃げなきゃ駄目です。方向性は決められません。風が流れてくると、放射能はこちらにきます。この方法では誰も逃げられません。みんな反対側に行きましょうってなるんですよ。ところが地震があつて道が壊れてるんですよ、そこを行こうと思うと壊れてるから行けないんだよね。

市長：それで、今申し上げているように道を整備してくださいというふうに申し上げてるわけです。

質問者：この話している内容でいいですかってみんなに聞いてみてください。反対に思います。

市長：何度も申し上げてますけども、何度も申し上げてますけども、これは原子力災害のみならず、あらゆることに言えます。あらゆることに言えます。100%ってのはありません。

質問者：それはわかります。はい。それはわかる。でも、国が前面に出てやってるわけですから、当然やってもらうべきことはやってもらわなきゃ。

市長：ですから、5 つも要望を出して。

質問者：5 つでオーケー出している方がおかしい。

市長：それはもし〈質問者〉さんが市長になられたらば、そういうふうにおっしゃっていただければいいわけでありまして、私もできる限りのところ、とんでもない規模の予算を国は用意していただけるだろうと確信を持っています。

司会：はい、大変恐縮でございます。お時間になりましたので、この辺で質疑応答を終了させていただきます。本当にたくさんのご意見、大変ありがとうございました。感謝申し上げます。以上で柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を終了とさせていただきます。

させていただきます。夜遅くまで大変ありがとうございました。

**市長**：本当に皆さんありがとうございました。